

質疑応答要旨  
(2004年3月期中間決算説明会)

内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正してあります。

**Q: 機械加工品の営業利益が第1四半期から第2四半期にかけて減少した要因を教えてください。**

A: ボールベアリングの利益は増加しましたが、航空機事業の低迷によるロッドエンドの売上減に伴い利益が減少しました。また、航空機用のファスナー、特殊機器の売上の減少も大きな要因です。夏休みも影響しました。

**Q: 電子機器の営業利益が第1四半期から第2四半期にかけて増加した要因を教えてください。**

A: スピンドルモーターの収益が改善したこと、ファンモーター、ステッピングモーターが底堅く利益を出していること、ライティングデバイスの収益が大きく改善したこと、がプラス要因でした。

**Q: 下期、利益改善に貢献してくる製品を教えてください。**

A: 機械加工品では、ボールベアリングの更なる増産、増販により、収益は一段と増加する見込みです。ピボットアッセンブリーの販売も下期大幅に伸びる見込みで、収益は改善すると考えています。ロッドエンドおよび航空機関係のネジも需要が戻ってまいりましたので、売上・利益ともに改善していく見込みです。電子機器セグメントでは、スピンドルモーターおよびライティングデバイスに増産・拡販の効果が出てくると思います。また、ファンモーター、ステッピングモーターにつきましても安定した利益が出せると考えています。

**Q: 設備投資の今期の計画210億円は、従来の計画から修正されましたか。**

A: 当初の計画は275億円でした。決算短信補足資料では245億円となっておりますが、本日の説明で210億円と更に減額修正いたしました。ボールベアリング関連の設備投資が大幅に減少できる見通しであることと、全般的な生産効率の見直しにより、各事業の増産設備にかかる費用が当初の計画を下回る見込みのため、210億円に修正しました。

**Q: 減価償却の今期の計画245億円は設備投資245億円に対して計算されているもので、これも減額になるのでしょうか。**

A: はい、その通りです。

**Q: ベアリングの利益率が大幅に改善していると推測されますので、他の機械加工品の利益が大きくダウンしているのでしょうか。特に、ピボットアッセンブリーの大幅な単価の下落の背景を教えてください。**

A: 第1四半期から第2四半期にかけてピボットアッセンブリーの数量は10%以上伸びましたが、販売単価が下がったことにより利益が大きく減少しました。早期に採算性を改善していくための取り組みを実施している最中です。フル稼働を続けながら設備機械の切換えを行っているため時間がかかっています。また、ピボットアッセンブリーの部門へのベアリングの供給を増やすことで、ベアリングのコスト低減に大きく寄与すると考えています。

**Q: ライティングデバイスの上期の売上が予想を上回った理由は、新規の顧客が増えたからでしょうか。**

A: 先数の増加が最大の理由です。市場での評価が当初の予想を大きく越えて高まってまいりました。

**Q: スピンドルモーターの収益が改善し、ライティングデバイスの売上が増加する前提で、電子機器部門の営業利益の下期予想を12億円に抑えた理由を教えてください。**

A: スピンドルモーターの状況を厳しく見て、それほど大幅な利益の改善、収益の改善というのは見込んでいません。

**Q: それは、2.5 インチや 1.8 インチの開発費が増えるという想定ですか、それとも価格が下がることを想定していますか。**

A: 両方を想定しています。

**Q: 松下電器産業株式会社とのモーター事業の合併事業は、初期から収益を上げられるのでしょうか、来期への業績への影響はありますか。**

A: 12 月の最終合意を以って回答するべきですが、当社としては少なくともマイナスからスタートすることは全く考えていません。但し、1 年、2 年目から大きく効果が出るとも考えていません。切り出す部門の各工場が一挙に一緒になるわけではないからです。2 年目からの効果を期待しています。一方、統合による効果にプラスして一番の焦点はシナジー効果であり、これは初年度から出てくると考えます。

**Q: 日本電産株式会社から、三協精機株式会社の特許に関わる件で、ミネベアはスピンドルモーターをシーゲート社以外には出荷できないのではないかとコメントがありましたが、この件についてどう考えていますか。**

A: 三協精機株式会社から当社のスピンドルモーターが三協精機株式会社の特許に抵触しているという警告書を確認に頂いています。現在、社内で警告書の内容を検討しています。当社ではドイツの PMDM にて特許問題等も不断に検討しながらスピンドルモーターの開発を行っています。現状ではどのような影響があるか結論を言い切ることが出来ない段階ということをご理解頂きたいと思えます。

**Q: スピンドルモーターの生産数量が下期に増加する根拠を教えてください。**

A: 下期、1.8 インチのボールベアリング仕様の製品の増加を見込んでいます。顧客数も増える見込みです。

**Q: FDB モーターも増えると予想していますか。**

A: 自社開発モデルを中心に、2.5 インチの FDB モーターを来年の中頃までには量産を開始できるよう取り組んでいます。

**Q: 設備投資を 210 億円に期初予想よりも 65 億円も削減できた具体的な理由を教えてください。また、設備投資の減額により減価償却はどの程度減りますか。**

A: 当初 50 億円を見込んでいたボールベアリングの設備を現在では半分位にまで削減できること、また、ピボットアッセンブリーの設備は大幅な増産を見越したうえでの計画でしたが、サイクルタイムの短縮や生産効率の改善が進んだ結果、約半分位圧縮できることになったことなどです。

減価償却については、まだ細かく計算していませんが、設備投資が 50 億円減れば、10%の 10 年償却とした場合約 5 億円減りますので、半年分としても 2 億 5,000 万円程度は減少すると考えております。

**Q: ボールベアリングの用途では、OA 機器向けが減少しているのでしょうか。**

A: OA 機器向けが減少しているとは感じておりません。

**Q: 販管費の削減は一時的なものでしょうか。それとも、下期以降、同水準で抑制できるのでしょうか。**

A: 販管費が第 2 四半期大幅に減少した理由は、ヨーロッパで販売会社、開発会社の統合を進めた結果、また、国内においては早期退職制度の導入を取り入れたことにより人件費での効果が表れてまいりました。第 3 四半期、第 4 四半期にも、効果は出てくると考えています。

**Q: 製造本部の機構改革による成果は、目に見えるような形で表れていますか。**

A: 現実には、金型やモールドの製造において、ロップリ工場でもバンパイン工場と同様に(ベアリングで実施してきたように)あくなきコストダウンを追求することにより、生産性を大幅に改善してきております。コストも下がってきています。恐らく、機構改革の成果は来期以降にはっきりした形で表れてくるだろうと思っています。

**Q: 今回、下期の利益を据え置いたことについて、計画策定のスタンスを聞かせてください。**

A: 生産性が改善しコストが下がると同時に販売単価が下がっていくと見ております。その辺を十分考慮して、通期の利益の見通しは据え置かせていただきました。

**Q: 第 2 四半期の原価率が第 1 四半期から悪化した背景について、および、下期の原価率の想定を教えてください。また、下期の販管費の想定を教えてください。**

A: ベアリングは改善しましたが、その他の航空機関連の売上が低迷したこと、また、機械加工品に比べて原価率が高い電子機器の売上が伸びたことの影響により、第 1 四半期から第 2 四半期にかけて原価率が若干悪化しました。下期は機械加工品、電子機器ともに収益改善に向かうため、当然原価率も改善が見込まれ、今のところ 75%を下回ると考えています。

下期の販管費は、第 1 四半期と第 2 四半期の丁度中間位を想定しています。

**Q: 下期の為替の前提を修正していますが、物量的には下期は期初の計画を上回るという理解で良いでしょうか。ドル建ての売上高は、何%位になりますか。**

A: 下期は上期よりボールベアリング、ピボットアッセンブリーの数が増えますし、電子機器もスピンドルモーター、ファンモーター、ステッピングモーターが増える見通しから、全体的に数量面では増加すると考えております。

売上のうち、ドル建ては約 50%、円が約 33%、アジア通貨が約 4%、ユーロ建てが約 12%と想定しています。

以上